



2022年度第1四半期決算説明会

説明会：2022年8月4日

Become A Social Innovator

本日の出席者



越路 和朗

CFO 兼 チーフ リスク オフィサー



ピーター・サルスティグ

チーフ メディカル オフィサー

重要な注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいています。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。また、当社は本資料の内容を随時更新する義務を負うものではありません。
- リスク要因としては、以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
医薬品行政の動向、社会・経済情勢ならびに法規制の変更、為替などの外部要因。後発品の影響などの競争環境の変化。主力製品への依存、ライセンス製品への依存、原薬供給等の特定の取引先への依存などの特定の製品・取引先等への依存。新薬開発の不確実性、研究開発投資が十分な成果を生まない可能性、他社との提携の成否などの研究開発活動に起因するもの。その他知的財産権、自然災害などに伴う生産の停滞・遅延、販売中止・製品回収等の製品供給に起因するもの、訴訟およびグローバルな事業展開に関わるリスクなど。
- 本資料には、医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は投資家の参考になる情報の開示を目的としており、投資の投資勧誘や推奨を行うものではありません。投資に関するご決定は皆さま自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に記載された情報は今後予告なく変更されることがあります。本資料の利用にあたっては利用者の責任であり、記載された情報の誤り等を含み本資料の利用によって生じた損害について、当社は一切責任を負うものではありません。

基本理念とWORLD VISION

基本理念

天機に参与する

自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献するという
ことを意味しています。*

WORLD VISION

Happiness with Vision

世界中の一人ひとりが、Best Vision Experience を通じて
それぞれの最も幸福な人生を実現する世界を創り出したい。

* 中国の古典「中庸」の一節をSantenが独自に解釈したもので、社名「参天」の由来でもあります。

Santen's VISION

Become A Social Innovator

Santenは、世界中の技術や組織・人材をつなぎ、「見る」を通じて人々の幸せを実現するSocial Innovatorへ。

GOAL

眼の疾患や不具合に起因する世界中の人々の社会的・経済的な機会損失を削減することを目指す。

STRATEGY

- A Ophthalmology**
眼科医療のイノベーションと眼科医療エコシステムの発展加速
- B Wellness**
より良い眼の状態に向けた重要性認識向上とアイケアの推進
- C Inclusion**
視覚障がいの有無に関わらず交じり合い・いきいきと共生する社会の実現

Vision 2020からSanten 2030に向けた戦略展開

Vision 2020 (2011-2020)
グローバル市場での
プレゼンス拡大

MTP2025 (2021-2025)
真のグローバル
眼科Rx企業への変革

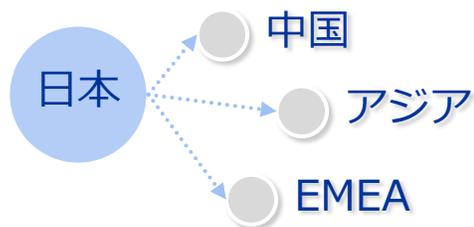
Santen 2030 (2021-2030)
Social Innovatorへ

Step1
日本の強みをテコに海外展開

Step2
グローバル化深化・新規領域参入

Step3
眼科分野のリーダー

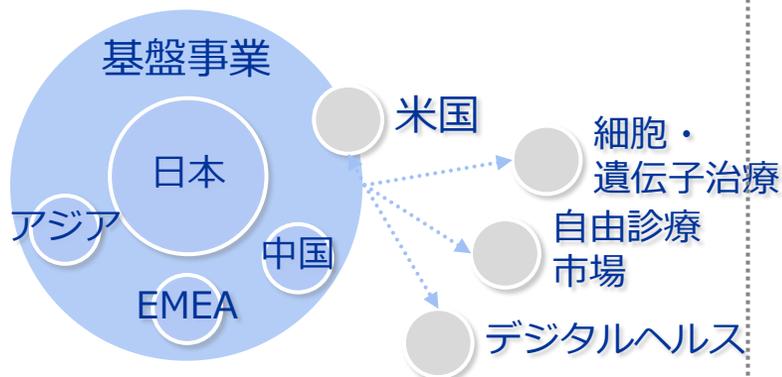
2011年時点のSanten



眼科医薬品のトッププレイヤーとして
日本で構築した強みをテコに複数地域に事業を拡大し急成長、グローバル(米国除く)でプレゼンスを確立

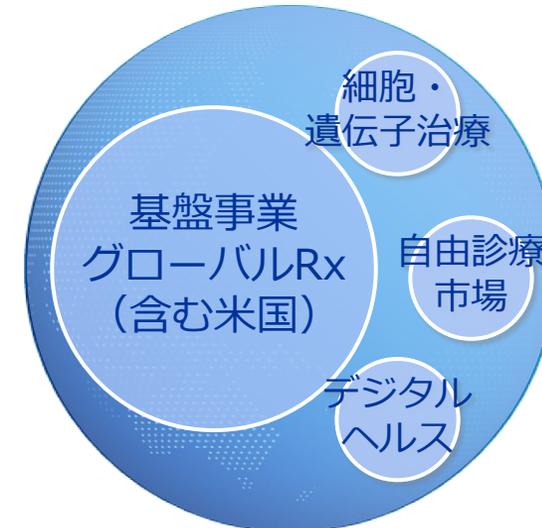
- 2014年メルク製品獲得後、アジア・EMEAでのプレゼンスを拡大

2021年時点のSanten



基盤事業の価値最大化とそれをテコにした
新規事業・新規領域への参入

- 基盤事業のプラットフォームとEyevanceの基盤を活用して米国眼科薬市場に参入
- 将来の成長分野である細胞・遺伝子治療技術、自由診療市場向け製品ならびにデジタルヘルス領域への投資も着手



眼科医薬品では米国を含めて盤石化
更に、従来の医薬品以外の新規技術や自由診療に拡大しつつ、事業モデルを進化
眼を通じて社会貢献するSocial Innovatorへ

2022-23年度はレジリエントな体質への転換期



Agenda

1

業績概要

2

研究開発アップデート

Appendix

売上収益：中国の大幅な落ち込みを全体でカバー

営業利益：減益も費用コントロールは厳格に実施

	2021年度 第1四半期		2022年度 第1四半期			2022年度通期	
	実績	対売上 収益比率	実績	対売上 収益比率	対前年同期 増減率	通期 業績予想	対売上 収益比率
売上収益	650	-	655	-	+0.8%	2,640	-
売上原価	269	41%	284	43%	+5.5%	1,030	39%
売上総利益	381	59%	371	57%	-2.5%	1,610	61%
販売費及び一般管理費	202	31%	194	30%	-4.0%	885	34%
研究開発費	61	9%	71	11%	+16.0%	270	10%
コア営業利益	117	18%	106	16%	-9.5%	455	17%
ノンコア販管費	2	0%	-	-	-100.0%	-	-
製品に係る無形資産償却費	24	4%	26	4%	+5.5%	103	4%
その他の収益	1	0%	3	1%	+176.3%	5	0%
その他の費用	0	0%	0	0%	+17.5%	15	1%
営業利益	92	14%	83	13%	-9.0%	342	13%
金融収益	6	1%	14	2%	+134.7%	9	0%
金融費用	3	0%	1	0%	-55.8%	6	0%
持分法による投資損失	3	0%	5	1%	+75.4%	20	1%
税引前四半期利益	92	14%	91	14%	-1.1%	325	12%
法人所得税費用	18	3%	24	4%	+29.0%	81	3%
(税負担率)	20.1%	-	26.2%	-	+6.1pt	25.0%	-
四半期利益	73	11%	67	10%	-8.6%	244	9%
コア四半期利益	90	14%	77	12%	-14.2%	341	13%

売上総利益

前年同期比 -2%

- 増収となったが、地域・製品構成等により原価率が対前年比で上昇

営業利益（コアベース）

前年同期比 -10%

- 研究開発の進展等によるR&D費用の増加はあったが厳格なSG&Aコントロールを実施

営業利益（IFRS）

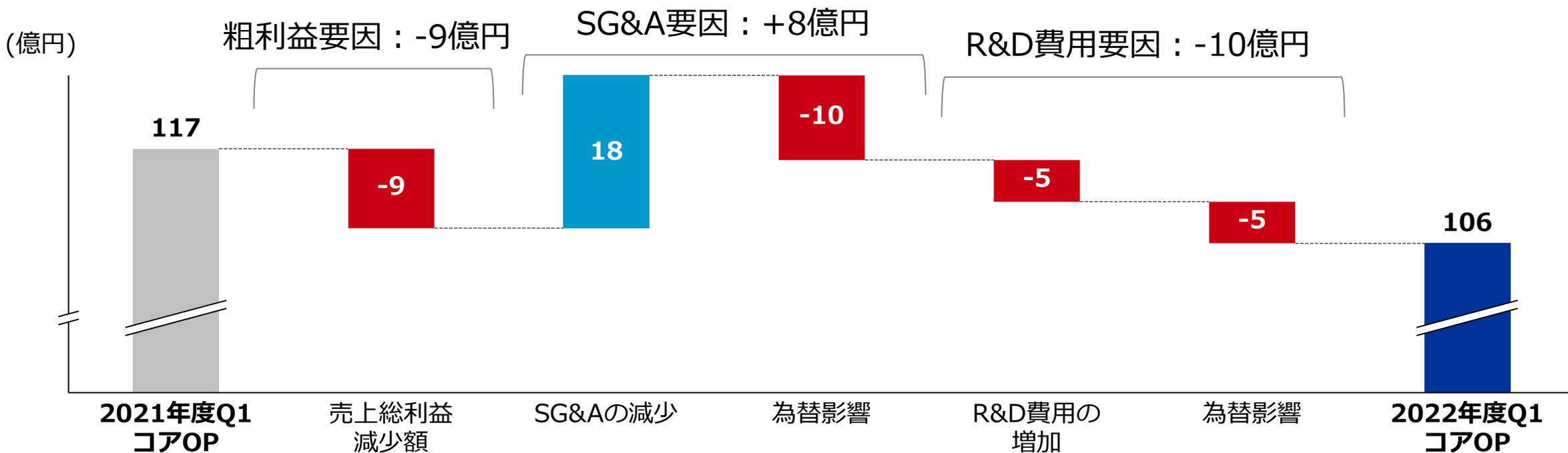
前年同期比 -9%

四半期利益（IFRS）

前年同期比 -9%

- 金融収益の為替によるプラス影響
- 戦略投資増加（持分法による投資損失）

販管費コントロール実施も、粗利益の減少や為替影響もあり減益



粗利益要因 為替要因等も含む売上収益の増加の一方、地域や製品構成、為替影響に伴う原価率の上昇等により、コア営業利益影響は対前期比-9億円

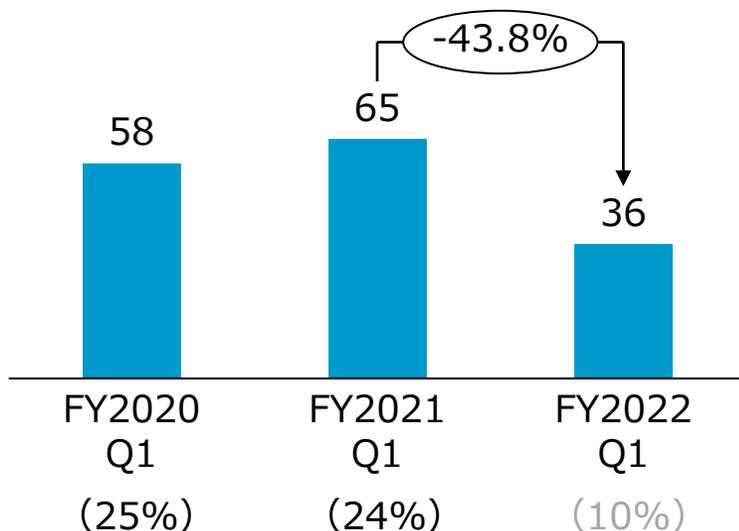
SG&A要因 SG&Aコントロールは実施しているが、為替によるSG&Aの増加もあり、コア営業利益影響は対前期比+8億円

R&D費用要因 研究開発の進展による費用増加に加え、為替影響もあり、コア営業利益影響は対前期比-10億円

中国を取り巻くマクロ環境により対前年で大幅に減収

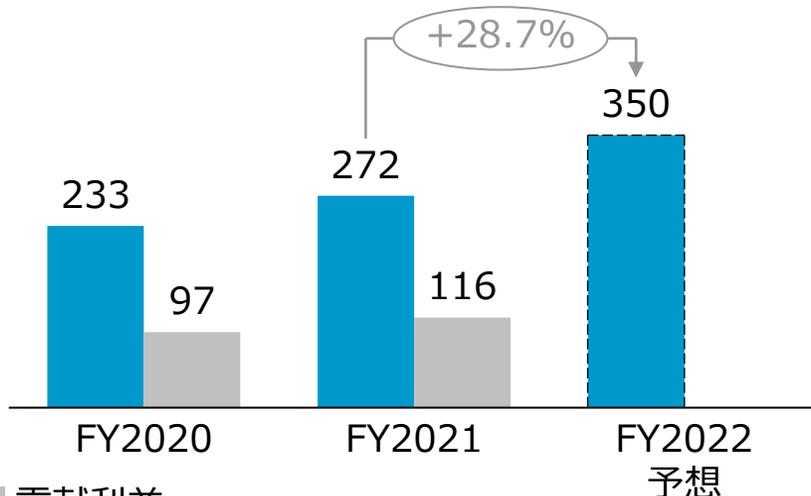
(億円)

第1四半期



対通期進捗率

通期



■ 売上収益 ■ 貢献利益

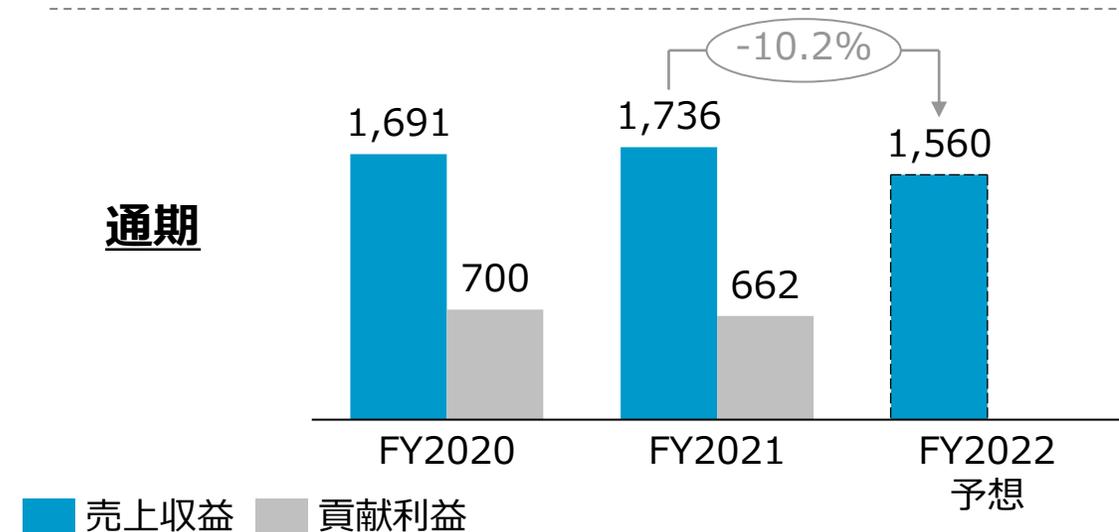
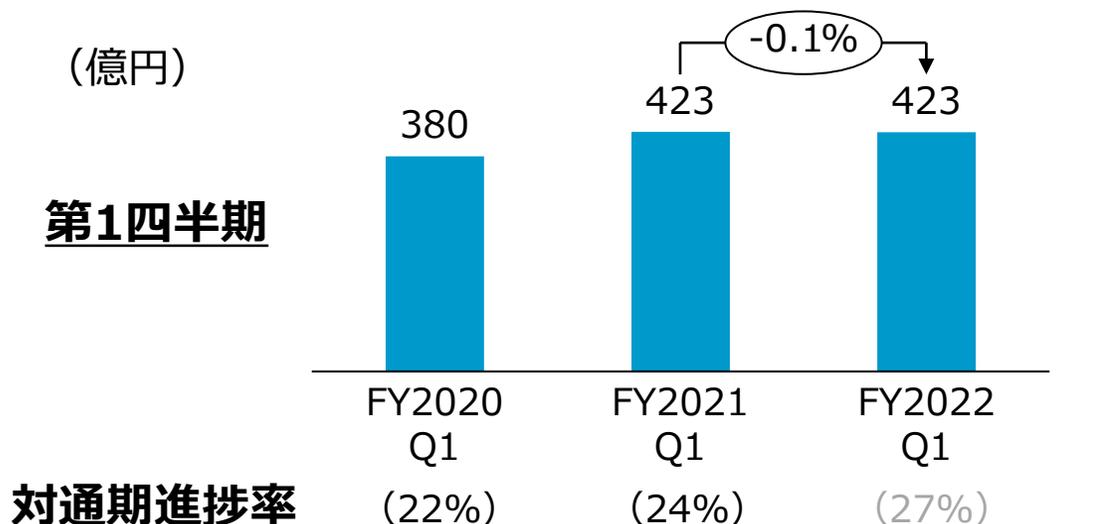
事業進捗

- ドライアイや感染症の売上比率が高く、マクロ環境の影響を大きく受ける
- SG&Aの抑制に注力しているが、Q1は減収影響が上回る

2022年度見通し

- COVID政策を含む中国を取り巻くマクロ環境により、想定より影響が広範囲、通期にわたる可能性

薬価改定の影響を主力製品でカバーし、想定より上振れで推移



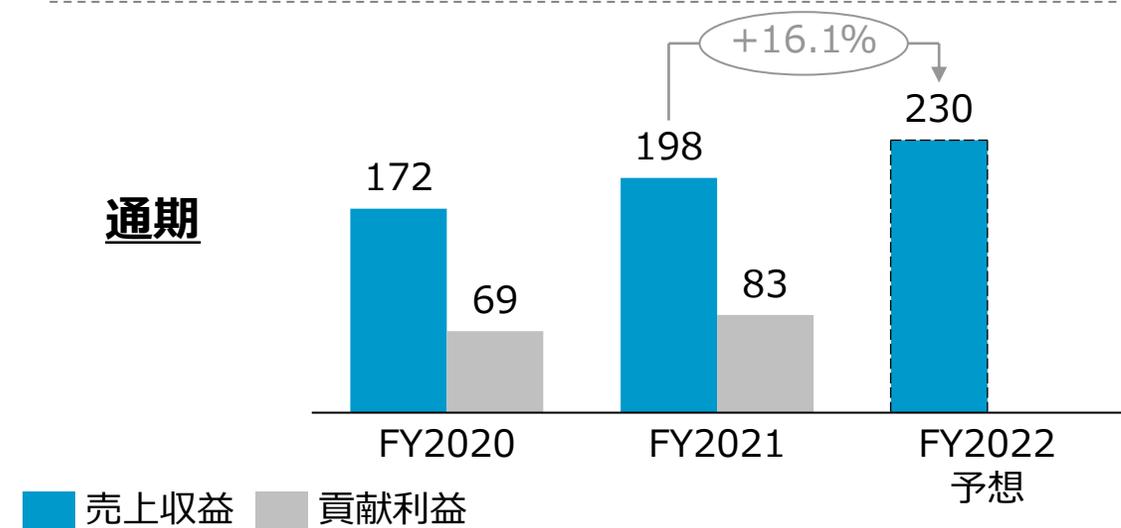
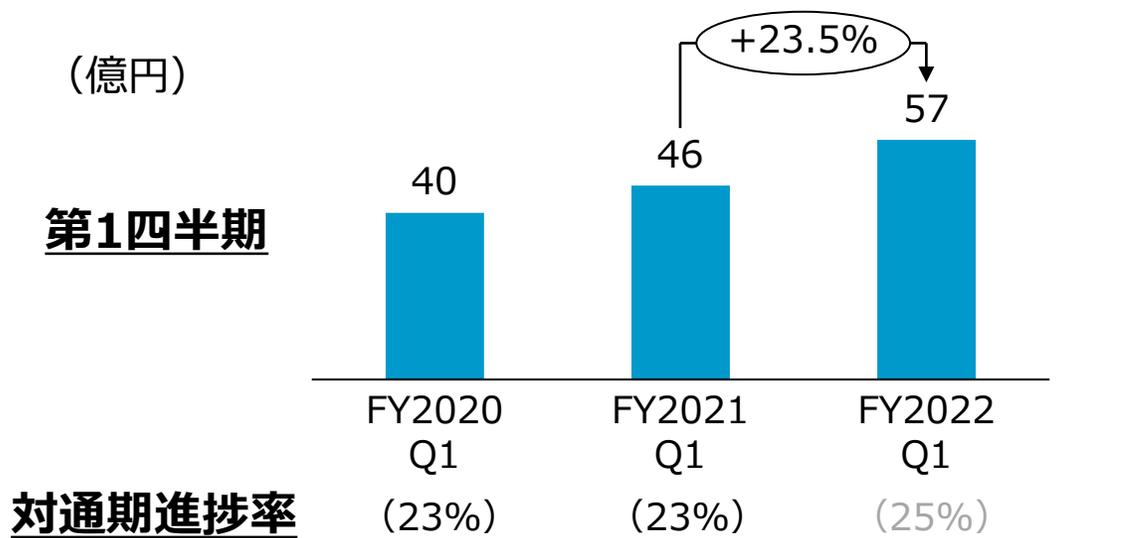
事業進捗

- 主力製品の薬価引き下げ（全体:-4%台半ば、うちアレジオン-20%）はあったが、順調に市場浸透が進む。対前年でエイベリス+2.7億円、ジクアス+4.7億円
- アレジオンLXのGEも6月に上市されず、主要領域における参天の競争力維持
- ジクアスLX承認取得し、上市に向けて準備を進行

2022年度見通し

- 現時点ではQ2以降予想通りの推移を見込み、モメンタムを維持
- 主力品の競争力を維持するための対応策を実施

主要国で緑内障・ドライアイを中心に成長し想定より上振れで推移



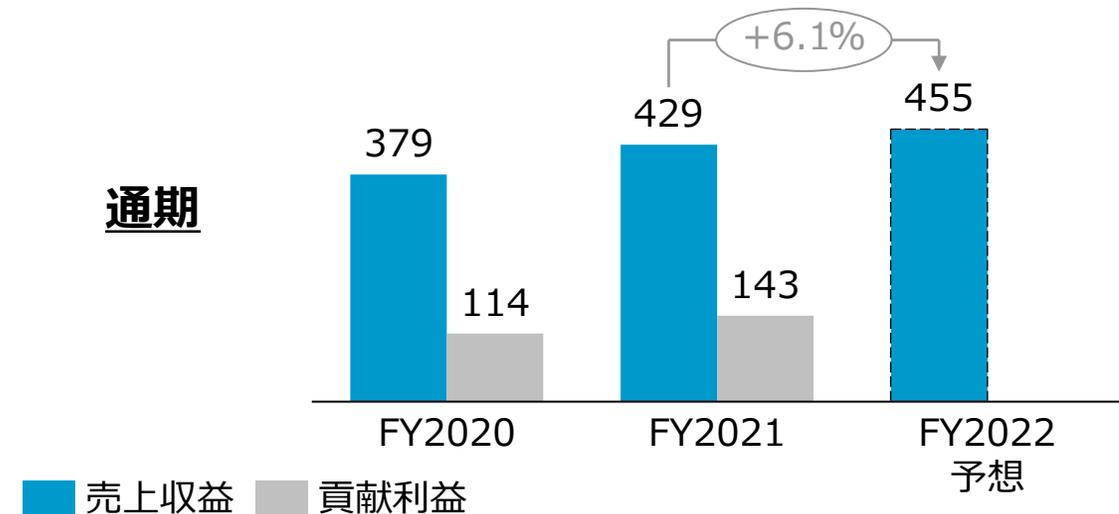
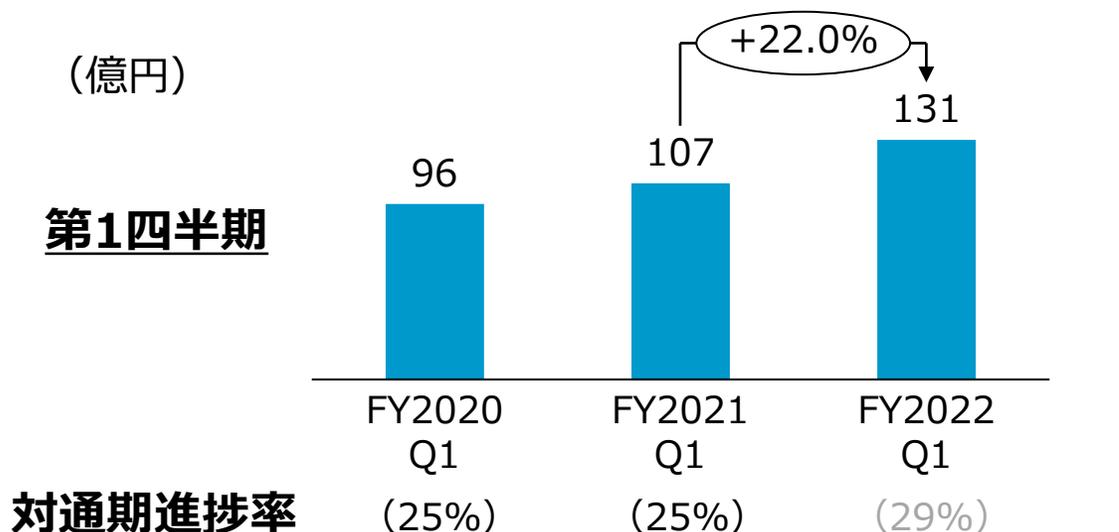
事業進捗

- 韓国：対前年+5.8億円 (YoY +23%)。オミクロン株の拡大による影響はあったものの、緑内障やドライアイの主力製品を中心に成長
- その他主要国も2桁成長 (台湾+1.4億円、フィリピン+1.1億円、タイ+1.1億円、ベトナム +1.1億円)

2022年度見通し

- 成長基調に変更はないが、主要国におけるGEとの競合環境激化に伴う影響など、外部環境の変化に注視が必要

緑内障主力品目を中心に伸長し、市場成長を超えて順調に推移



事業進捗

- 緑内障製品の市場浸透が引き続き順調に進む。対前年でコソプト+5.2億円、タプロス+3.3億円、タプコム+2.8億円、プリザーフロ マイクロシャント +2.8億円など
- 新製品の拡販が進む。Ducressa+1.1億円。

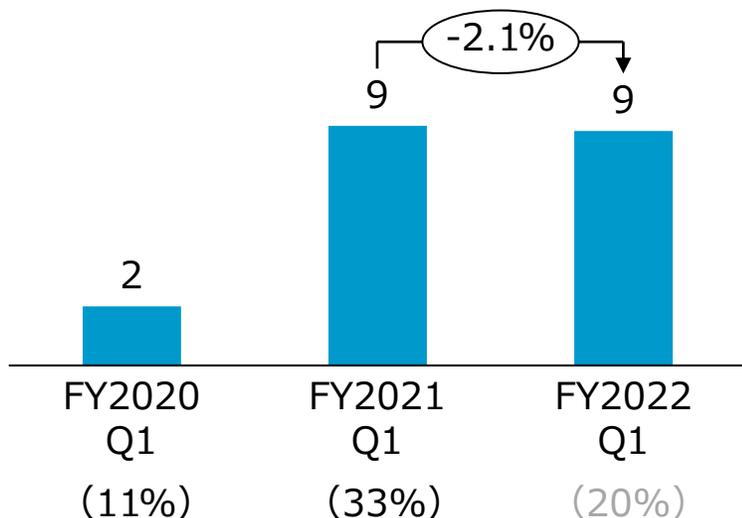
2022年度見通し

- 安定的な業績推移を見込み、タプロスのLoE等による影響も一定程度想定

供給問題の影響によりEyevance製品の売上減少

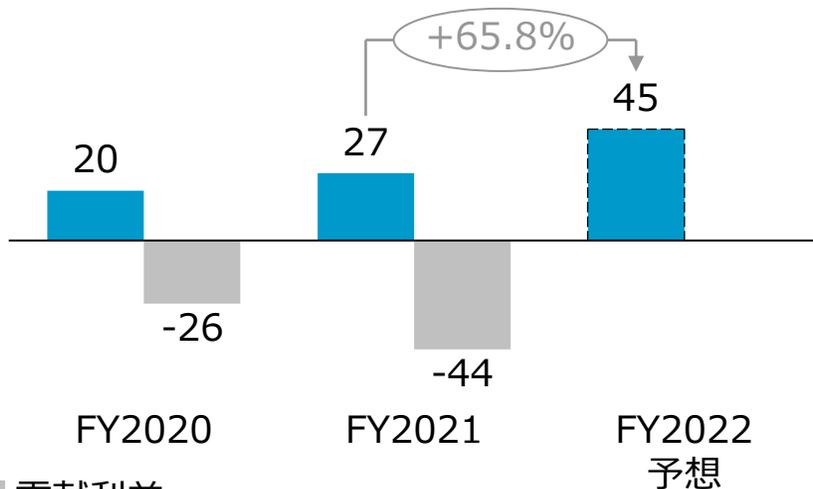
(億円)

第1四半期



対通期進捗率

通期



■ 売上収益 ■ 貢献利益

事業進捗

- 供給問題の目途は立ったが回復はQ2以降の見込み
- Tobradex STおよびFlarexのトレンドは営業努力により徐々に改善してきている
- Verkaziaの市場反応はポジティブだが、Medicaid 保険償還手続きの遅延やシーズン期後の上市であったこともあり立ち上がりは緩やか。本格的な立ち上がりは季節性も鑑みQ4以降を想定

2022年度見通し

- 赤字幅の縮小を目指す。STN1011700のPDUFA後に、米国戦略の見直しを予定

日本薬価引き下げ等により売上対前年-1%。営業利益率は前年並確保 地域間の収益変動幅の相互的な吸収を図る

	2021年度		2022年度		
	実績	対売上 収益比率	予想	対売上 収益比率	対前期 増減率
売上収益	2,663	-	2,640	-	-0.8%
売上原価	1,097	41%	1,030	39%	-6.1%
売上総利益	1,566	59%	1,610	61%	+2.8%
販売費及び一般管理費	839	31%	885	34%	+5.5%
研究開発費	264	10%	270	10%	+2.4%
コア営業利益	463	17%	455	17%	-1.8%
ノンコア販管費	6	0%	-	-	-
製品に係る無形資産償却費	97	4%	103	4%	+5.8%
その他の収益	10	0%	5	0%	-52.0%
その他の費用	11	0%	15	1%	+32.4%
営業利益	359	13%	342	13%	-4.7%
金融収益	25	1%	9	0%	-64.6%
金融費用	12	0%	6	0%	-50.4%
持分法による投資損失	16	1%	20	1%	+24.7%
税引前当期利益	356	13%	325	12%	-8.7%
法人所得税費用	84	3%	81	3%	-3.6%
(税負担率)	23.7%	-	25.0%	-	+1.3pt
当期利益	272	10%	244	9%	-10.3%
ROE	8.4%		7%		
コア当期利益	352	13%	341	13%	-3.1%

売上総利益

前年同期比 +3%

- 製品構成および製造原価低減効果を見込む

営業利益（コアベース）

前年同期比 -2%

- 研究開発費は前年比増加を確保
- 販管費の抑制

営業利益（IFRS）

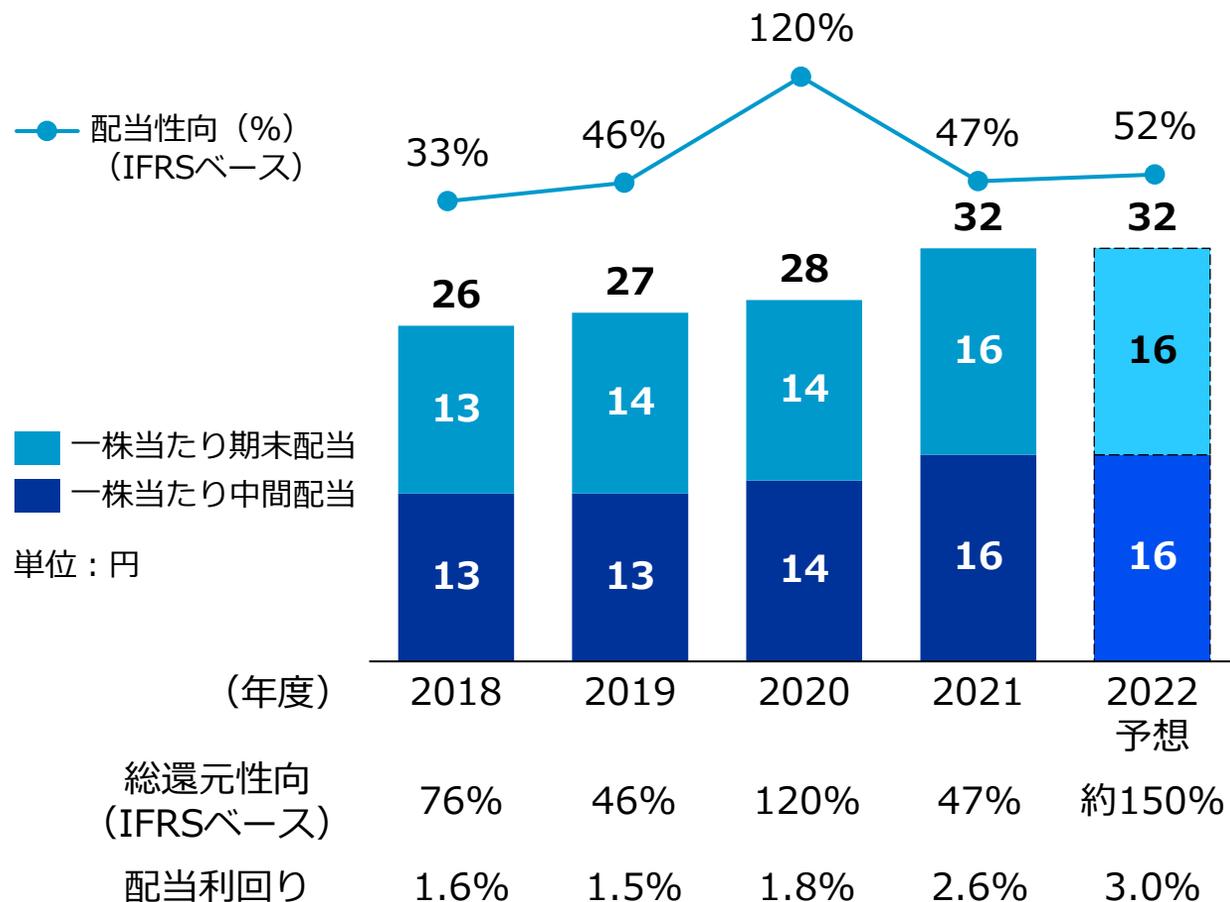
前年同期比 -5%

当期利益（IFRS）

前年同期比 -10%

- 戦略投資増加（持分法による投資損失）

年間配当32円、2022年度で総還元性向約150%を予定 9月末を期限とし、自己株式の取得を実施中



自己株式の取得状況

1. 取得に係る事項

取得株式数：1,250万株（上限）

取得価額：150億円（上限）

取得期間：2022/5/11～2022/9/30

2. 取得状況（7月末時点）

取得株式数：7,652,800株（進捗率61.22%）

取得価額：7,793,548,859円（進捗率51.96%）

2022年度予想総還元性向については、5/10開示の自己株式取得を含む。2020年度の配当性向および総還元性向は遡及修正を実施。
自己株式取得：発行済み株式総数（自己株式を除く）に対する割合は、2018年度2.0%。配当利回りは各年度末の株価（2022年度は6月末）で算出。

第3棟が7月に竣工

製造準備を進め計画通り2023年度の稼働を目指す



高い生産性の実現

- 自動化・デジタル化
- 省人化

環境へ配慮した設計

- 省エネルギー機器の導入
- 設備配置の工夫

グローバル需要対応

Agenda

1

業績概要

2

研究開発アップデート

Appendix

第1四半期に進展したパイプライン12件（内、後期フェーズ9件）

緑内障	STN1011700 エイベリス	米国で 再申請 。審査終了目標日2022年11月6日
	STN2000100 ブリザーフロ マイクロシャント	日本で 上市 （ソフトローンチ）
	STN1013900 Rhopressa®/Rhokiinsa®	日本でのP3試験（ラタノプロスト点眼液併用試験）で、 主要評価項目達成
	STN1014000 Rocklatan®/Roclanda®	アジアで 申請
ドライアイ	STN1008903 ジクアスLX	日本で 承認取得
アレルギー性 結膜炎	STN1011402 エピナスチン塩酸塩 (眼科用クリーム)	日本でのP3試験において、 LPI *1
春季カタル	STN1007603 Verkazia	米国で 上市 。中国で 承認取得
近視	STN1012700 アトロピン硫酸塩	中国でのP2/3試験において、 FPI *2
	STN1013400 AFDX0250BS	中国で P1試験準備を開始
眼瞼下垂	STN1013800 オキシメタゾリン塩酸塩	中国で P3試験準備を開始
マイボーム腺 機能不全	STN1010905 シロリムス点眼剤	P2a試験において、 LPO *3
フックス角膜内皮 ジストロフィ	STN1010904*4 シロリムス点眼剤	P2a試験において、 FPI

*1 LPI; Last Patient In. *2 FPI; First Patient In.
*3 LPO; Last Patient Out. *4 当該プログラムは
Santenが独占的実施権の行使オプションを保有。本ブ
ロジェクトコードは、第Ⅱ相臨床試験終了時にSanten
が独占的実施権を獲得した後に附番予定のコードです。

緑内障を対象としたROCK阻害剤をグローバルで開発

	STN1013900	STN1014000
	Netarsudil mesylate	Netarsudil mesylate / latanoprost (配合剤)
開発テリトリー	日本、アジア、欧州、中国	
臨床開発の状況 <small>*試験プロトコールが社内承認されたもののみ記載</small>	<p>日本 現状：P3 計画：2023年度 P3終了</p> <p>欧州 現状：承認 計画：2022年度 上市</p> <p>アジア 現状：申請 計画：2023年度 承認</p>	<p>欧州 現状：承認 計画：2022年度 上市</p> <p>アジア 現状：申請 計画：2023年度 承認</p>

日本での申請に必要な3つの主要第Ⅲ相試験

リパスジル点眼液との比較試験

- STN1013900 (1回/日) + 基剤 (1回/日)
- リパスジル点眼群 (2回/日)

リパスジルに対する 優越性を確認

2021年度第2四半期決算説明会で報告済み

https://www.santen.com/ja/assets/pdf/ir/document/202203/mtg2022_2q.pdf

ラタノプロスト点眼液併用試験

- STN1013900 (1回/日) + ラタノプロスト (1回/日)
- プラセボ (1回/日) + ラタノプロスト (1回/日)

STN1013900の 有意な上乘せ効果を確認

次ページでご説明 ▶▶▶

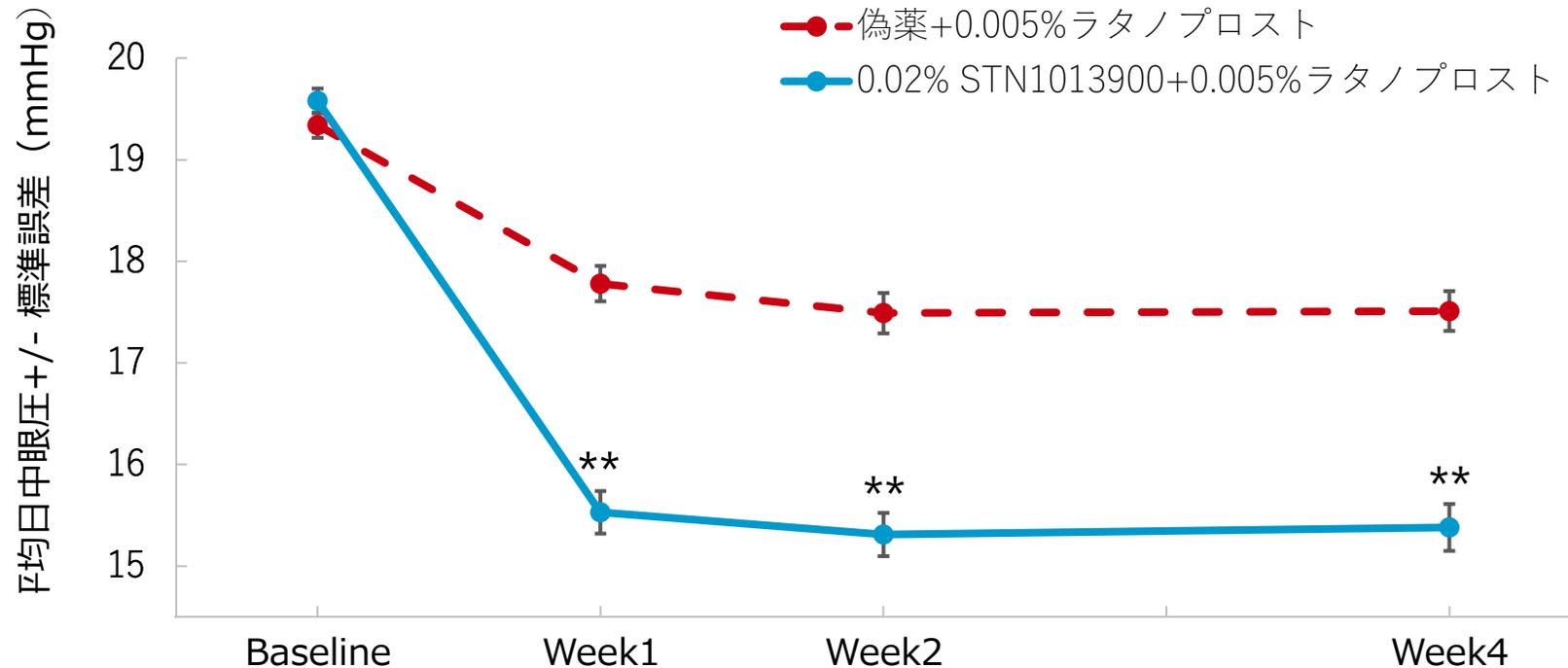
長期投与試験

- STN1013900 (1回/日) (低眼圧対象)
- STN1013900 (1回/日)
- STN1013900 (1回/日) + ラタノプロスト (1回/日)
- STN1013900 (1回/日) + チモロール (2回/日)

試験実施中

ラタノプロスト点眼液併用試験において STN1013900の統計学的に有意な上乗せ効果を確認

▶▶▶ 処置群および測定日ごとの、測定眼における平均日中眼圧 +/- 標準誤差 (mmHg)



- STN1013900はラタノプロスト点眼液併用試験において、有意な眼圧下降の上乗せ効果 (Δ-2.36mmHg) を示した
- 最も頻度の高い有害事象は結膜充血であった (STN1013900+ラタノプロスト群 : 53.3%、偽薬+ラタノプロスト群 : 6.5%)

Agenda

1

業績概要

2

研究開発アップデート

Appendix

外国為替レート前提と感応度

為替レート前提

(円)

	2021年度 第1四半期 実績	2022年度 第1四半期 実績	2022年度 予想
USD	109.81	129.16	125.00
EUR	132.05	137.80	135.00
CNY	17.03	19.58	19.00

為替感応度

(億円)

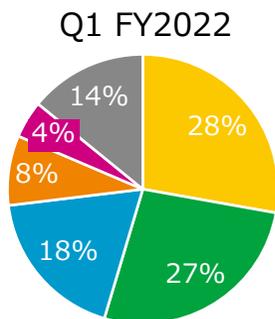
	USD	EUR	CNY
売上収益	+0.5	+4.5	+3.5
コア営業利益	-1.6	+0.5	+1.1

*2022年度業績予想における
1%円安時の売上収益・コア営業利益予想に与える影響

2022年度第1四半期 仕向地域別売上収益

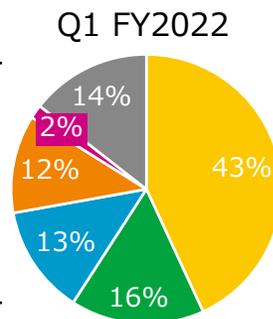
連結合計

YTD	Q1 FY2021 (参考)	Q1 FY2022
アイリーア*1 硝子体内注射液	187億円	182億円
コソプト配合点眼液	54億円	60億円
ジクアス点眼液	45億円	51億円
その他	363億円	362億円
合計	650億円	655億円



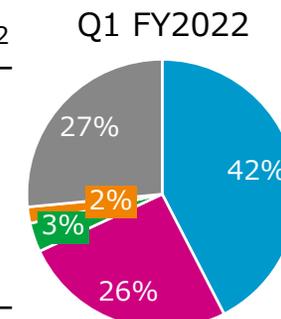
日本

YTD	Q1 FY2021 (参考)	Q1 FY2022
アイリーア*1 硝子体内注射液	187億円	182億円
アレジオン*2点眼液 (LX含む)	50億円	48億円
ジクアス点眼液	34億円	39億円
その他	152億円	154億円
合計	423億円	423億円



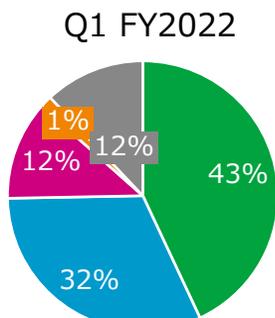
中国

YTD	Q1 FY2021 (参考)	Q1 FY2022
ヒアレイ点眼液	21億円	9億円
クラビット点眼液	18億円	7億円
ジクアス点眼液	7億円	7億円
その他	19億円	14億円
合計	65億円	36億円



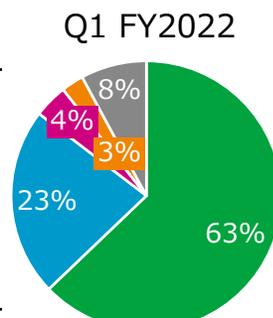
アジア

YTD	Q1 FY2021 (参考)	Q1 FY2022
コソプト配合点眼液	12億円	15億円
ヒアレイ点眼液	4億円	8億円
ジクアス点眼液	4億円	5億円
その他	25億円	29億円
合計	46億円	57億円

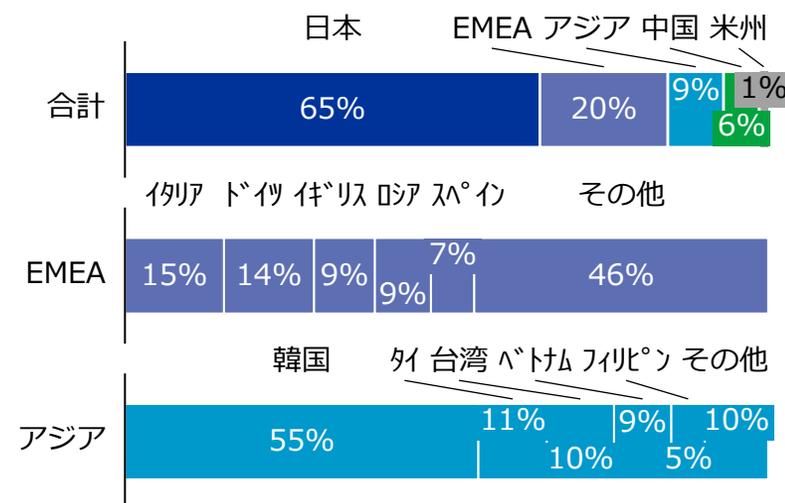


EMEA

YTD	Q1 FY2021 (参考)	Q1 FY2022
コソプト配合点眼液	26億円	31億円
タブロス点眼液	16億円	20億円
Ikervis	14億円	15億円
その他	50億円	65億円
合計	107億円	131億円



主要国・地域別売上比率 (Q1 FY2022)



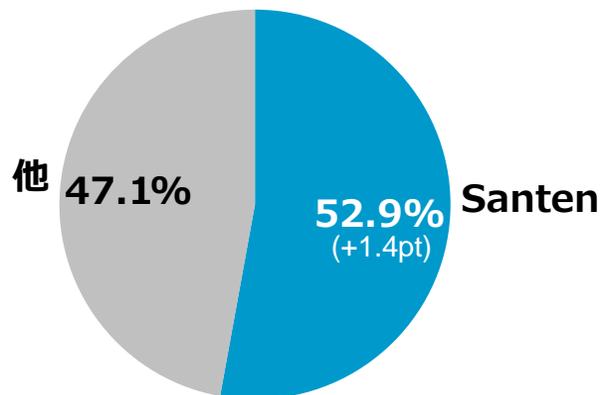
*1アイリーア：製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品

*2アレジオン：提携パートナーである日本ベーリンガーインゲルハイムの商標

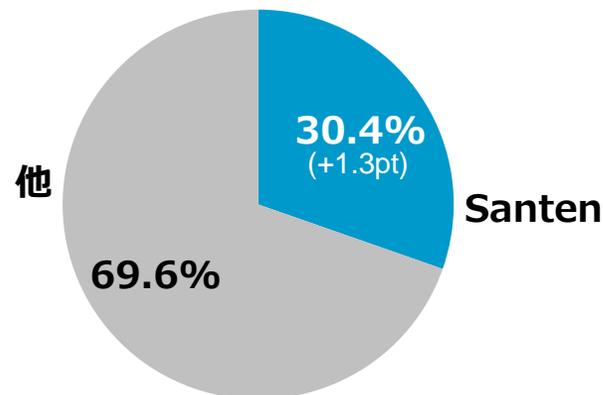
全ての領域において引き続きNo.1を維持

領域右記載数値：市場規模
グラフ：マーケットシェア（括弧内は対前年増減）

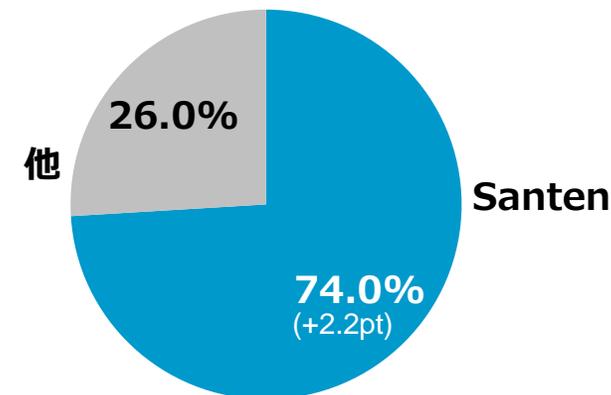
Total : 3,681億円



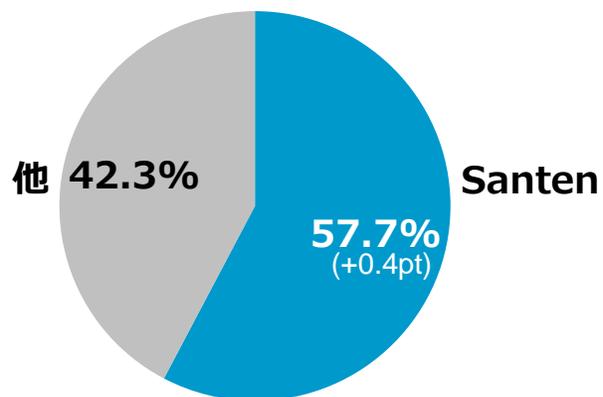
抗緑内障剤 : 982億円



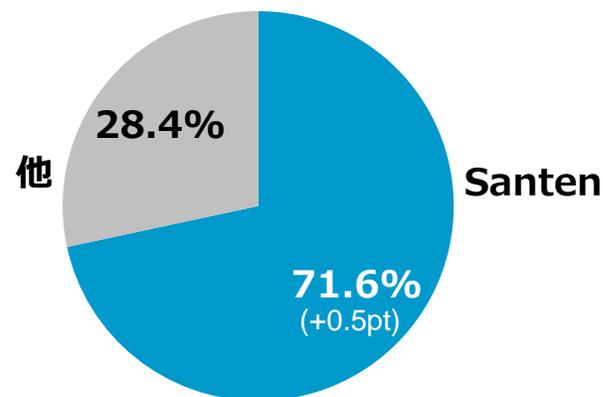
網膜疾患治療剤* : 1,189億円



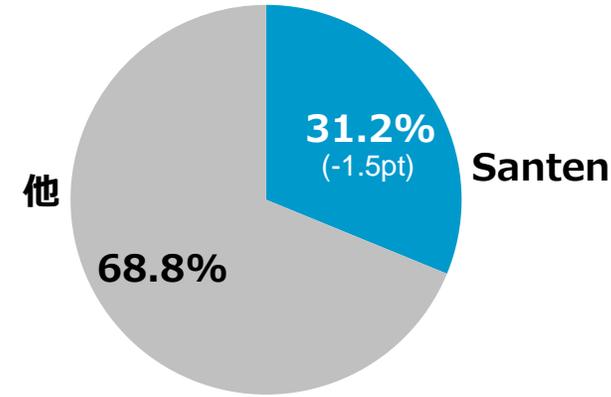
角膜疾患治療剤 : 422億円



抗アレルギー剤 : 510億円



抗菌点眼剤 : 75億円



*製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品（眼科用VEGF阻害剤「アイリーア」）を含む 出典：Copyright © 2022 IQVIA. JPM 2020.7-2022.6を基に参天分析 無断転載禁止

グローバル開発の状況①

(2022年7月現在)
青字は更新情報

効能・効果	一般名など	契約テリトリー	開発コード	臨床開発の状況*1	
緑内障	オミデネパグ イソプロピル エイベリス	WW*2	STN1011700 DE-117	米国	現状：2022年5月 再申請 計画：2022年度 承認（審査終了目標日2022/11/6）
				日本	現状：上市
				アジア	現状：上市
	Sepetaprost	WW	STN1012600 DE-126	米国	現状：P2（主要評価項目達成）
				日本	現状：P2b（至適用量探索完了） 計画：2022年度 P3開始
				欧州	現状：P2（探索的試験） 計画：2022年度 P2（探索的試験）終了
	緑内障用デバイス プリザーフロ マイクロシャント	WW （自社単独開発） ※米州、オーストラ リア、ニュージューラ ンドを除く	STN2000100 DE-128	日本	現状：2022年7月 上市（ソフトローンチ）
				欧州	現状：上市
				アジア	現状：承認 計画：2022年度 上市
	Netarsudil mesylate Rhopressa®/Rhokiinsa®	日本、中国 アジア、欧州	STN1013900 AR-13324	日本	現状：P3 計画：2023年度 P3終了
				欧州	現状：承認 計画：2022年度 上市
				アジア	現状：申請 計画：2023年度 承認

*1 試験プロトコルが社内承認されたもののみ記載。2 World wide

グローバル開発の状況②

(2022年7月現在)
青字は更新情報

効能・効果	一般名など	契約テリトリー	開発コード	臨床開発の状況	
緑内障	Netarsudil mesylate /latanoprost (配合剤) Rocklatan®/Roclanda®	日本、中国 アジア、欧州	STN1014000 PG-324	欧州	現状：承認 計画：2022年度 上市
				アジア	現状：2022年5月 申請 計画：2023年度 承認
近視	アトロピン硫酸塩	日本、中国 アジア	STN1012700 DE-127	日本	現状：P2/3 計画：2023年度 P2/3終了
				中国	現状：2022年6月 P2/3開始 計画：2025年度 P2/3終了
				アジア	現状：P2 (主要評価項目達成)
	EMEA	STN1012701 SYD-101	欧州	現状：P3 (Sydnexis社実施) 計画：2024年度 P3終了	
AFDX0250BS	WW	WW	STN1013400	日本	現状：P1 (安全性・忍容性を確認)
				中国	計画：2023年度 P1試験開始
老視	ウルソデオキシ コール酸	WW (自社単独開発)	STN1013600	米国	計画：2022年度 P2a開始
				日本	現状：P1 (安全性・忍容性を確認)

グローバル開発の状況③

(2022年7月現在)
青字は更新情報

効能・効果	一般名など	契約テリトリー	開発コード	臨床開発の状況	
眼瞼下垂	オキシメタゾリン 塩酸塩	日本、中国 アジア、EMEA カナダ	STN1013800 RVL-1201	日本	計画：2022年度 P3開始
				中国	計画：2023年度 P3開始
				アジア	計画：2022年度 申請
網膜色素変性症	jCell	日本、中国 アジア、欧州	STN6000100	—	現状：P2安全性試験（米国、jCyte社実施、 2022年度終了予定）、P3試験計画策定中
アレルギー性 結膜炎	エピナスチン塩酸塩 (眼科用クリーム)	日本	STN1011402	日本	現状：P3 計画：2022年度 P3終了
春季カタル	シクロスポリン Verkazia	WW (自社単独開発)	STN1007603 DE-076C	米国	現状：上市
				中国	現状：承認 計画：2022年度 上市
ドライアイ	ジクアホソル ナトリウム (持続製剤) ジクアスLX	日本、中国 アジア、欧州	STN1008903 DE-089C	日本	現状：2022年6月 承認 計画：2022年度 上市
フックス 角膜内皮 ジストロフィ	シロリムス (点眼剤)	—*1	STN1010904*1	米国 フランス インド	現状：2022年5月 P2a開始 計画：2024年度 P2a終了
マイボーム腺 機能不全	シロリムス (点眼剤)	WW (自社単独開発)	STN1010905	日本	現状：P2a 計画：2022年度 P2a終了

*1 当該プログラムはSantenが独占的実施権の行使オプションを保有。本プロジェクトコードは、第Ⅱ相臨床試験終了時にSantenが独占的実施権を獲得した後に附番予定のコードです。

グローバル開発の状況④

(2022年7月現在)
青字は更新情報

効能・効果	一般名など	契約テリトリー	開発コード	臨床開発の状況	
緑内障	タフルプロスト・ チモロールマレイン酸塩 (配合剤) タブコム、タブティコム	日本、中国 アジア、欧州	STN1011101 DE-111A	中国	現状：P3 計画：2023年度 P3終了
	ラタノプロスト	WW (自社単独開発)	STN1013001 DE-130A Catioprost	欧州	現状：P3 (主要評価項目達成) 計画：2022年度 申請
				アジア	現状：P3 (主要評価項目達成)

STN1013900の日本事業の緑内障ポートフォリオにおける位置づけ

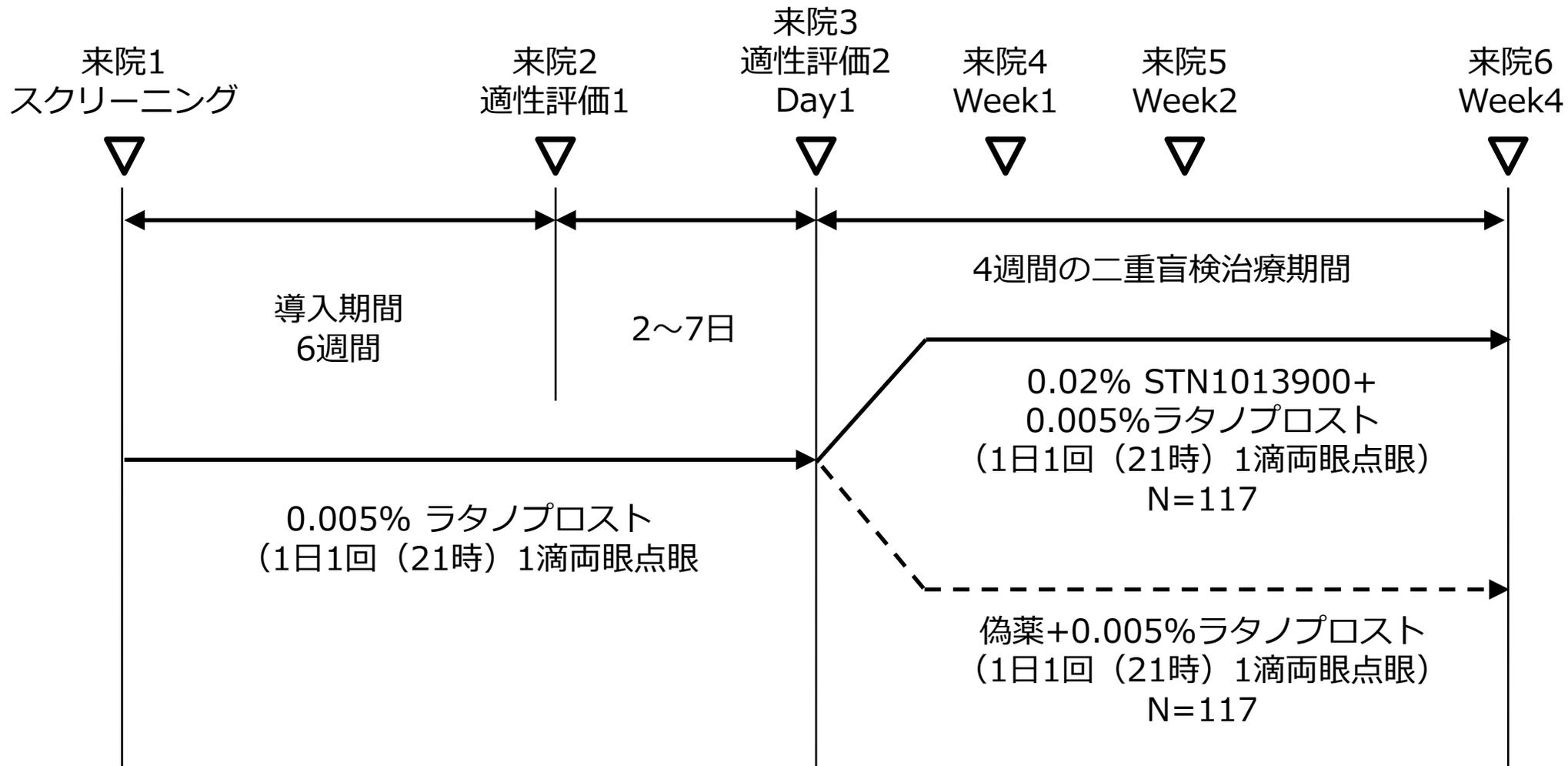
▶ Santenは、豊富な製品/ソリューションによる治療パッケージを提供

New : MTP2025期間中に上市を予定しているパイプライン



中期経営計画「MTP2025」説明会資料より再掲

ラタノプロスト点眼液併用試験プロトコール





Imagine Your Happiness

あなたのあしたを想う